

母子保健医療対策等総合支援事業 生涯を通じた女性の健康支援事業

調査結果

調査対象自治体：都道府県・指定都市・中核市

配布数 163自治体、回答数 35自治体（回収率 27.6%）

女性健康支援事業の実施状況（n=35）

実施の有無	有	無
	20	15

事業内容別の実施状況（延べ）

事業名	実施都道府県市数（実施対象者延べ数）						
	計	思春期	性成熟期・更年期				老年期
		10	20	30	40	50	60~
健康教育事業（ライフステージに応じた健康教育、知識の普及啓発）	87	21	14	13	13	13	13
女性健康支援センター事業（望まない妊娠、身体的・精神的な悩みに対する相談対応、検討会の設置、相談員の研修）	99	18	18	16	16	16	15
不妊専門相談センター事業（専門相談員の研修、指導・相談対応）	18	3	3	3	3	3	3
HTLV-1 母子感染対策事業（協議会の設置、従事者研修、普及啓発）	6	1	1	1	1	1	1

事業委託の場合の事業実施機関（n=20）

事業実施機関	計
NPO法人	1
医師（大学病院）	4
県助産師会	5
保健師、助産師、看護師	3
その他	3
不明	4

女性健康支援事業実施予定の有無（現在実施していない自治体 n=15）

女性支援事業実施予定の有無	無	未回答
	14	1

実施場所	東京都
ステージ	性成熟期（20代）
事業形態	普及啓発

事業名

20代で知っていたい、と思うこと

対象者

女性

運営委託先

事業内容

Webサイトやリーフレットを活用し、妊娠適齢期や不妊に関する正確な知識を広めることにより、男女ともが妊娠・出産についての正しい知識を持った上で自分のライフプランを考えることができるようにする。

背景・契機

生涯を通じた女性の健康支援事業実施要項（平成8年12月20日付8衛健母第1080号）

実績

年	サイトにアクセスしたユーザー数
R3	37,170

目標

なし

事業効果

妊娠適齢期の男女ともが妊娠・出産についての正しい知識を持った上で自分のライフプランを考えることができるようにするため、引き続き行政として妊娠適齢期や不妊に関する客観的な情報を適切な時期に伝えていく。

実施場所	東京都
ステージ	思春期～性成熟期
事業形態	相談支援

事業名

妊娠したかも相談@東京

対象者

女性

運営委託先

事業内容

若年層からの相談ニーズが高い「妊娠したかも？」の相談に対して、SNSによる相談（現在：LINEによるチャットポット）対応を行い、若年向けにもわかりやすく・タイムリーに相談に対応する（令和2年11月30日開設）。チャットポットシステムの運用保守は外部委託。

背景・契機

都の既存事業の「妊娠相談ほっとライン」の相談内容のうち「妊娠かも？」の相談が4割程度を占めており、特に10代からの相談は8割が「妊娠かも？」の相談となっている。「妊娠かも？」の相談については、「アフターピルの飲み方」「妊娠の可能性のある行為」「妊娠検査薬の使い方」等、ある程度定型化している内容でもあるため、SNSによる相談（LINEによるチャットポット）対応を行い、若年向けにもわかりやすく・タイムリーに相談に対応できるようにした。

実績

年	利用者数（10代）
R3	100

目標

なし

事業効果

若者向けの相談の入口として、気軽に相談できるように敷居を低くすることで、若年層からの相談により多く対応することができる。実際は妊娠していなかった場合でも、若年向けの性教育が学べるページに誘導し、「アフターピル」等について学ぶ機会の一助となるようにする。

実施場所	東京都
ステージ	全ての世代
事業形態	相談支援

事業名

女性のための健康ほっとライン

対象者

思春期から更年期に至る女性

運営委託先

事業内容

思春期から更年期に至る女性を対象に思春期の性の悩み、避妊、婦人科疾患、更年期障害等について、看護師等の専門職が相談に応じる。

背景・契機

生涯を通じた女性の健康支援事業実施要項（平成8年12月20日付8衛健母第1080号）

実績（R3）

年	対象人数（概数）
10	68
20	167
30	188
40	537
50	408
60代以降	-

目標

妊娠、出産等女性特有の機能及び身体的特徴を有することから生じる女性の心身に関する様々な支障や悩みに対応するため、相談指導体制を確立することにより、生涯を通じた女性の健康の保持増進を図る。

事業効果

主にメンタル関連、婦人科に関すること、その他健康相談が主な相談内容であり、引き続き女性の心身に関する様々な支障や悩みに対応するため、事業を継続する。

図

実施場所	東京都
ステージ	思春期～性成熟期（10代）
事業形態	相談支援

事業名

とうきょう若者ヘルスサポート

対象者

都内に在住・在学・在勤の10代の若者

運営委託先

事業内容

- ・性を含む健康に関する幅広い相談に電話・対面・メールで看護師等の専門職が対応する相談窓口。
- ・相談員の派遣や対面相談に関する会場設営等は外部委託。相談内容を適宜東京都と共有し、対応の仕方等打ち合わせも行なっている。

背景・契機

・国の「成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針」（令和3年2月閣議決定）により、男女を問わず、相談支援や健診等を通じ、将来の妊娠のための健康管理に関する情報提供を推進するなど、プレコンセプションに関する体制整備が求められている。これを受け、中高生等の思春期特有の悩みや妊娠を考える男女を対象とした健康管理などについて、相談の実施方法や医療機関との連携等の

実績

年	対象人数（概数）
R4.10~12	100
R4	

目標

令和4年10月から開始しており、都内の対象へ周知を進めていき、相談窓口利用者を増やす。

事業効果

学校や身近な大人にはなかなか相談しにくい悩みをもつ若者が気軽に相談できるようになることで、悩みからくる不安を減らし、また若者へ性に関する正しい知識を知ってもらう。

図

実施場所	栃木県庁こども政策課
ステージ	性成熟期（短大・大学生）
事業形態	健康教育

事業名

すこやか妊娠サポート事業

対象者

大学生、短大生等の青年期の者 2,000名

運営委託先

事業内容

大学生、短大生等の青年期の者の仕事、結婚、妊娠、出産等のライフプラン設計を支援するため、妊娠適齢期や避妊、性感染症等に間する正しい知識や健康づくりに関する普及啓発。

背景・契機

- ・中高校生を対象とした思春期教室や性教育を実施しているが、避妊や性感染症の予防等がテーマの中心であり、妊娠・出産に関する普及啓発が不十分である。
- ・県内でも若年妊婦による墜落分娩等の事件が発生しており、そうしたケースを未然に防止すべく、予期しない妊娠等の予防効果の充実が求められている。

目標

事業効果

セミナーの開催を通して、20前後の若者に妊娠・出産に関する正しい知識を普及できており、性感染症や予期しない妊娠等の防止や妊娠・出産を見据えたライフプランの設計支援につながっている。

実施場所	群馬県庁母子保健担当
ステージ	思春期
事業形態	健康教育（普及啓発）・相談支援

事業名

群馬県思春期保健対策事業

対象者

中・高校生等の思春期世代の若者

運営委託先

NPO法人ラサーナ

事業内容

- ・「GUNMA "Love Myself" プロジェクトとして、高校生メンバーに思春期世代の健康課題に関する健康教育を行い、メンバーが作成した動画やWeb記事を公開することで、当事者目線での健康や性に関する正しい知識の普及啓発を行っている。
- ・ユースカフェ（健康や性に関する書籍やグッズを用意し、手に取ることができたり、産婦人科医等の専門家と相談ができたりする場）の開催やYou Tuberを招待する講演会の開催など、様々なアプローチをしている。
- ・県内の全中学生・高校生に健康や性に関する相談窓口を周知し、困った際に適切な相談窓口につながるきっかけづくりを行なっている。

背景・契機

- ・健康や性に関する情報が氾濫しているといわれるなかで、妊娠・出産、妊孕性を含めた正しい知識の普及啓発等が必要であると判断したため。
- ・自治体による妊活支援だけでは、情報を必要としている人に情報が十分に届かない。

実績

報告なし

目標

- ・健康教育の参加者数：延べ1,000人
- ・妊娠・出産等に関する医学的・科学的に正しい知識が得られた参加者の割合：100%

事業計画

- ・「第2期群馬県版総合戦略」
- ・「ぐんま子ども・若者未来ビジョン 2020」

事業効果

- ・活動終了時のメンバーへのアンケートから、エビデンスに基づいた健康や性に関する正しい知識が得られたこと、妊娠・出産、妊孕性を含めたライフデザインについて考えられるようになった。
- ・「健康教育で知り得た知識を生かして周囲にアドバイスできるようになった」「自分の身体を大切にしようという気持ちになった」「ネットの情報を鵜呑みにしないようになった」などの感想があり、メンバーからの波及効果や自己肯定感向上などの効果もあった。

実施場所 神奈川県横須賀市保健所
ステージ 性成熟期
事業形態 相談支援

事業名

妊活LINEサポート事業

対象者

妊娠前の女性

運営委託先

株式会社ファミコン

事業内容

- ・自治体で周知を行い、委託業者で相談対応し、市へ3か月毎に実績報告。
- ・年2回、利用者へのアンケートを行い、利用者の声を聞きながら、改善に努めている。

背景・契機

- ・出生数の減少や自治体による妊活支援だけでは、情報を必要としている人に情報が十分に届かない。
- ・自治体による妊活支援だけでは、情報を必要としている人に情報が十分に届かない。
- ・気軽に相談できる環境を整えたい。

実績

年	LINEサポート登録者数
R3	103
R4	116
R5	129

目標

妊活サポート登録者数の増加

事業効果

専門家からの助言により受診につながる等、個々の状況に合わせた妊活支援を行うことができ、出生率の低下を防ぐことに寄与できる。横須賀に住んでいて良かったと思える人が増える。

図

実施場所	茨城県福祉部子ども政策局 少子化対策課母子保健担当
ステージ	性成熟期
事業形態	相談支援

事業名

いばらき妊娠・子育てほっとライン

対象者

全世代

運営委託先

助産師会

事業内容

妊娠・出産・子育て・思春期・更年期に関する電話相談事業

令和5年度よりLINE相談・健康教育事業も実施予定。

健康教育事業（小・中・高校を対象としたいのちの授業、20歳前後を対象としたプレコンセプションケア）
高校生～20歳前後の方へ「女性のからだサポートブック」を配布。

背景・契機

- ・若い世代が気軽に相談できる手段として、LINE相談を検討した。
- ・健康教育事業は、もともと助産師会で「いのちの授業」を行っており、要望があり、プレコンセプションケアも追加し県委託事業とした。
- ・サポートブックは、5000部/年 配布していたが、令和4年度より15,000部に増やした。

実績

年代	対象人数（概数）
10	120,901
20	116,249
30	137,884
40	184,873
50	186,564
60代以降	553,360

目標

- ・いのちの授業：30か所/年
- ・プレコンセプションケア：20か所/年
- ・女性のからだサポートブック：15,000部/年 配布

事業効果

令和3年度は、906件の電話相談の実績がある。

思春期、LGBT、妊娠、子育てと様々な相談に対応し、継続支援が必要な場合は市町村へつないでいる。



実施場所	東京都練馬区
ステージ	性成熟期
事業形態	健康教育

事業名

女性の健康週間 健康イベント事業（令和4年度はオンラインでの開催）

対象者

30代女性とそのパートナー、家族

事業内容

①動画配信サイト（Youtube）での動画掲載

「ねりまちゃん～ねりま健康ちゃんねる～いまの”ワタシ”に合った”健康”のご褒美を探そう～」

仕事や子育てで忙しい30歳代女性が「自分自身」の健康に目を向けられること、女性の情報を「見つける」「調べる」力を高めることにより、周囲（パートナー・子どもや家族等）への波及効果を期待し、短時間でも取り組みやすい健康づくりの手法を提供する動画とした。

②動画配信サイト（Youtube）+Zoom講演会（当日配信）

- ・ライフステージ（思春期・婚姻・出産・育児・就労・更年期・高齢期など）
- ・近年の生活傾向（メタボ・晩婚化・ワークライフバランスなど）
- ・生活のスタイル（食事・運動・理美容など）
- ・区の健康課題 ①生活習慣病予防（男性のメタボ、女性のやせ・貧血の問題、妊娠糖尿病・高血圧への対策）、②健診・検診受診率の低さ、③コロナ禍での健康二次被害（外出自粛による影響等）

背景・契機

平成10年から区主催「練馬まつり」に集合型健康イベント（健康フェスティバル）を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、令和4年度よりオンラインでの開催に変更し実施した。

実績

年代	対象人数（概数）
30代	51,676

目標

健康づくりを自主的に行う人を増やすことを目指す。特に、健康づくりを後回しにしている人や新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛で生活が不活発になっている人に、自分の身体や生活に目を向けながら、無理なく楽しく継続して取り組める健康の維持向上のための手法等を提供するとともに、関連する行政サービスを紹介する。各動画視聴回数は500人程度を目標とし、動画等で紹介した行政サービス（健康づくりに関する講座・イベントや健診・検診等）の利用率向上を目指す。

事業効果

図

ねりまちゃん～ねりま健康ちゃんねる～いまの”ワタシ”に合った”健康”のご褒美を探そう～

実施場所	東京都練馬区
ステージ	性成熟期～老年期（40～70代）
事業形態	健康教育

事業名

骨粗鬆症・予防教室

対象者

40～70代の女性

事業内容

①骨粗鬆症検診

区内の医療機関80か所にて実施。対象者には区から受診券を送付しており、費用は500円で受診できる。検査はDXA法またはMD法で実施。要精検の場合は、専門医へ案内し、要指導・以上なしの場合は予防教室を案内。

②予防教室（民間事業所へ委託）

対面・オンラインの講座および動画を活用した情報提供。

講座・動画の内容（シナリオ）や資料の作成、当日の準備～運営まで全て外部委託。

教室の内容は委託事業所と健康部の専門職が協力して作成。対象者への配布チラシは、教室案内と健康教育内容で構成し、健康部専門職で作成した。

予防教室は区内施設でも実施し、参加者の参加状況をリアルタイムで共有している。

背景・契機

- ①要介護認定申請の主な原因の第一位が骨折・転倒（平成29年度→令和元年度で3.9%増加）
- ②75歳以上の要介護認定者の骨折治療者は26.2%（H30年度）
- ③若年女性の「やせ」の増加
- ④コロナ禍により食生活の乱れや運動機会の減少

実績（R）

年代	対象人数（概数）
40代	55,642
50代	54,466
60代	36,737
70代	37,866

目標

- ・対象者約35,000人のうち、検診受診者約10,500人（受診率30%）を想定。検診受診者のうち、要精検約1,000人（10%想定）、要指導：約3,700人（35%想定）、異常なし：約5,800人（55%想定）
- ・予防教室対象者（要指導、異常なし）おぬち、①動画を活用した情報提供：約5,000人（50%想定）の視聴、②対面・オンラインでの講座：約370人（要指導者の10%想定）

事業効果

図

実施場所	福岡県福岡市
ステージ	性成熟期～更年期（40～50代）
事業形態	健康教育

事業名

からだ美活講座 40～50代女性限定

今日からはじめる美活・腸活～からだから 心から 美くなる第一歩～

対象者

福岡市内在住40～50歳代女性 40人

事業内容

①Zoomを活用したオンライン限定講座

- ・1回目：更年期の体の変化・腸活（講義）・運動実技・個人目標立案
- ・2回目：認知行動療法を用いたストレス対策（講義）・目標継続動機付け
- ・3回目：腸活（講義）・運動実技・目標の振り返り

個人目標を設定し、講座期間中に動機付けを行い、生活変容につなげる。

講座内容を配信し、再受講可能とすることで、運動の継続や講座の理解を深める機会とする。

背景・契機

40代、50代は身体の衰えを感じ始め、こどもの自立や親の介護など家庭環境の変化もあり、自分の気持ちのコントロールやストレス解消が難しい時期でもある。その世代に対し、更年期対策やストレスコーピングを学ぶ機会を作り、教室終了後も、各人が継続して取り組めるよう支援する目的で平成29年度より開始。

目標

講座の理解度（「ややわかった」以上の回答80%）、講座内容を生活に取り入れる人の割合（80%）、設定した目標の達成率（70%）

事業効果

家事、育児、介護、仕事等、自分自身の健康を省みる時間が取り難い対象者の隙間時間を活用するため、令和3年度よりオンライン限定講座に変更。令和4年度は40名を超える申し込みがあったが、参加率は70%程度であった。

